

マラウイ月報(2014年4月)

主な出来事

【内政】

- 4月22日, 国内初の大統領候補討論会を開催。
- 4月25日, マラウイ選挙委員会, 有権者登録数を約730万人へ下方修正。

【外政】

- 4月19日, ブランタイヤ市市長と中国青島市副市長が両市の姉妹都市提携に関する意図表明文に署名。
- 4月27日, バンダ大統領はタンガニーカ・ザンジバル合併50周年式典に参列のためタンザニアを訪問。

【経済】

- 3月18日～4月3日, チカタ氏を団長とするIMF代表団がマラウイを訪問, 対マラウイ信用拡大ファシリティを検証。
- 4月28日, 当地独大使館, 対マラウイ一般財政支援からの撤退を発表。

【内政】

・ 大統領候補討論会の開催

4月22日, NAMISA(National Media Institute for Southern Africa)の主催により国内初の試みとして大統領候補討論会が開催され, 大統領選挙に立候補する全12政党のうち与党人民党(PP), 民主進歩党(DPP)他二党を除く計8党の大統領候補が参加, 教育や農業, 医療, ガバナンス等について議論された。同月29日, 同様の大統領候補討論会が再度実施され, 与党PPを除く全ての党から大統領候補が参加した。同討論会はOSISA(Open Society Initiative For Southern Africa)及びUKAidの資金援助により実現した。(4月23日, ネーション紙1-3面, デイリータイムズ紙1-2面, 4月30日ネーション紙1-2面, デイリータイムズ紙1, 2面)

・ マラウイ選挙委員会, 有権者登録数を下方修正

4月23日, ムベンデラ・マラウイ選挙委員会委員長は, 有権者登録数を当初発表した750万人から約730万人に下方修正した。データ登録作業中にミスがあり, 実際数を上回る登録を行ったものと見られる。当初の数字には国家統計局から人口増加率等を鑑みて多すぎるとの批判があった。(4月25日, デイリータイムズ紙5面)

・ 世論調査の発表

4月25日, マラウイ及びインドに拠点を置くとするリサーチ・テック・コンサルタント社が, 5月のマラウイ大統領選挙に向け行った世論調査結果を発表したが, メディア等各方面から同調査の信憑性を疑う声があがっている。なお, 同調査ではバンダ大統領が42%, チャクウェラ・

マラウイ議会党(MCP)党首が23%、ムタリカ・民主進歩党(DPP)党首が22%、アトゥペレ・統一民主戦線(UDF)党首が10%の得票率で、バンダ大統領が再選となる可能性が高いとの見方が示されており、与党PPは、同調査は与党の人気を正しく反映するものと述べている。(4月29日、ネーション紙1-2面、デイリータイムズ紙1, 3面)

- ・ **EU選挙監視団が活動を開始**

4月12日、政治、法律、人権、メディア等の専門家から構成されるEU選挙監視団のコア・チーム7名がマラウイに到着。続いて同月24日、デ・カイザーEU議員を団長とするEU選挙監視団の長期監視員28名が各県で活動を開始した。さらに、40名の短期監視員が5月14日から活動を開始する予定。EUは2004年、2009年と過去二回のマラウイ大統領選挙に監視団を派遣している。(4月28日、ネーション紙3面、デイリータイムズ紙4面他)

【外政】

- ・ **ブランタイヤ市と中国青島市の姉妹都市提携**

19日、マラウイ南部ブランタイヤ市市長と中国青島市副市長がそれぞれの市を代表し、姉妹都市提携に関する意図表明文に署名した。署名式に同席したパン駐マラウイ中国大使は、中国とマラウイは二国間関係樹立以降、中央政府間の交流のみならず地方レベルでの交流も重視してきた旨述べた。マラウイ側からはマキレニ地方自治・農村開発次官が出席し、新しい商品や市場の開発に向け両市は協力していくよう呼びかけた。(4月21日、デイリータイムズ紙2面)

- ・ **米軍によるマラウイ軍訓練**

米軍はマラウイにて、3ヶ月に渡るマラウイ軍下士官30名に対する上級曹長養成訓練を実施した。同訓練修了式に参加したゴンザレス駐マラウイ米国大使館次席は、平和維持軍訓練を始め、近年行われてきた複数の共同訓練は二国間のパートナーシップを維持、成長させるのに必要な信頼、協力関係を構築した旨述べた。(4月25日、ネーション紙3面)

- ・ **バンダ大統領のタンザニア訪問**

4月27日、バンダ大統領はタンガニーカ・ザンジバル合併50周年式年参列のためタンザニアを訪問した。同大統領は出発前、アフリカ諸国が共に祝福することはよいことであり、マラウイとタンザニアが今後も協力を続けていくことを願う旨述べ、タンザニアとの国境問題が行き詰まりを迎える中、両国の友好関係をアピールした。(4月28日、ネーション紙4面、デイリータイムズ紙2面)

- ・ **タンザニア将兵のマラウイ訪問**

バンダ大統領がタンザニアを訪問している最中、タンザニア軍将兵17名がマラウイを研修旅

行で訪問し、国境問題を巡り同国との関係緊張が危惧される中、マラウイのソーシャル・メディア等では同訪問を非難する声が目立った。一方、バンダ・マラウイ国防省軍広報官によれば、タンザニア将兵の訪問は定期的に行われており、同訪問はマラウイ湖を巡るタンザニアとの国境問題には一切関係が無い。(4月27日、サンデー・タイムズ紙1, 2, 4面)

【経済】

・ IMFによる拡大信用ファシリティ検証結果

3月18日から4月3日、チカタ氏を団長とするIMF代表団がマラウイを訪問し対マラウイ信用拡大ファシリティ(ECF)に関する5回目の検証を行った。結果としては、当国は適切に緊縮財政を継続し、公共財政管理については行動計画実行等の成果を見せ、数値目標についても概ね達成していると評価された。一方、2014/15年の予算案についての協議は継続される予定であり、5月20日の選挙後、予算案が提出されるタイミングで代表団が再度当地を訪問し、予算案における合意を再確認する予定。これにより、代表団からIMF理事会へのレビュー結果提出、またそれを受けての2000万米ドルの拠出も選挙以降となる予定。(4月4日、ネーション紙1面及びデイリータイムズ紙1面)

・ 電力料金値上げ

4月4日から、マラウイ電力会社によって段階的に電力料金の段値上げが行われる。現在平均31.54クワチャ/kwhである料金は43.24クワチャ/kwhへと値上げされることとなる。値上げは4年間に渡って行われる予定であり、まずは今年13.5%の値上げから開始され、順次値上げが予定されている。(4月7日、デイリータイムズ紙27面)

・ CDCによる当地スタンダードバンクへの支援

4月8日、スタンダードバンクは英開発金融機関であるCDCと2500万米ドルの輸出信用ファシリティ契約を結んだ。本ファシリティのもと、国内の輸出業者に対して低金利で外貨建てのローンが提供される予定。(4月9日、ネーション10面及びデイリータイムズ紙2面)

・ ゼロ援助予算の可能性

ムケザランバ財務大臣は、2014年/15年度の予算について、付加価値税(VAT)等の税収増加等により、政府は6170億クワチャの歳入(一般財政支援以外の贈与を含む)を見込んでおり、一般財政支援無しで賄えるとの自信を示した。これらの税収増加は、国税庁が電

子機器及びコンテナスキャナーを用いた新たなVAT支払いシステムの導入することで可能となる見込み。(4月10日, デイリータイムズ紙9面)

- ・ **インフレ率が24%へと低下**

3月の前年同月比インフレ率は24%へと6ポイント低下した。これは、メイズの入手し易さ向上による食糧価格低下及びクワチャ高の傾向が理由とみられている。(4月16日, ネーション紙3面及びデイリータイムズ紙3面)

- ・ **マラウイ・イノベーション基金の立ち上げ**

4月22日, UNDP及びDFIDによる32億クワチャのマラウイ・イノベーション基金の立ち上げが発表された。同基金は, 民間部門から提案された革新的なビジネス案に対し, 商業上のリスクを緩和し, 新たなビジネスモデルを実施するために, 20万米ドルから75万米ドルの援助を提供するもの。(4月16日, ネーション紙9面及び25日, デイリータイムズ紙12面)

- ・ **独の対マラウイ一般財政支援からの撤退**

4月28日, 当地独大使館は対マラウイ一般財政支援からの撤退を発表した。独のプレスリリースによれば, 同国は一般財政支援グループ(CABS)におけるステータスをオブザーバーへと変更したとのこと。同国は, CABSについてはマラウイ政府及びドナー間のハイレベルな政治的対話を確保するために重要であると認識しており, 今後もその対話に継続して参加していくとしている。(4月29日, ネーション紙1面及びデイリータイムズ紙1面)

- ・ **葉タバコの売上げが150億クワチャとなった**

葉タバコ・オークション開始後5週目の売上げは3820万米ドル(約150億クワチャ)となり, 2760万米ドルであった昨年同時期の売上げより増加した。この売上額増加は, 個々の販売価格が向上したためではなく, 販売量の増加が理由。タバコ統制局によれば, 2800万キログラムが1.34米ドル/kgで販売されている。一方昨年は1880万キログラムが1.46米ドル/kgで販売された。(4月29日, ネーション紙9面)

【警備・治安】

- ・ **(選挙関連暴力)ムソサ与党人民党東部代表が負傷**

4月7日, ムソサ与党人民党(PP)東部代表はマラウイ南部マンガチにて, 回教徒の族長二名が誘拐されたと聞き, 救助に行った先で何者かに頭部を殴られ負傷した。ムソサ氏は, 犯

人は回教徒に人気を有する野党、統一民主戦線(UDF)の関係者であると主張しているが真相は明らかでない。(4月9日、ネーション紙2面、デイリータイムズ3面)

- ・ **(選挙関連暴力)カロンガ中央選挙区で支持者が対立**

4月14日、ムウェニフンボ前与党人民党(PP)幹事長は自身が無所属で議員選に出馬するマラウイ北部のカロンガ中央選挙区周辺にて、同選挙区に立候補するムワルワンダ候補(現財務副大臣)の支持者から襲撃を受けた。同二候補は激しい対立関係にあり、支持者間では小規模な衝突が続いている。(4月16日、デイリータイムズ紙1, 3面、ネーション紙1-2面)

【医療】

- ・ **マラウイ保健省、エボラ出血熱対策を強化**

西アフリカでのエボラ出血熱の発生を受け、マラウイ保健省は全ての旅行者を対象に、マラウイ入国ポイントでの検査を強化することを決定した。(4月3日、ネーション紙3面)

- ・ **クイーン・エリザベス中央病院で深刻な薬剤不足**

マラウイ南部ブランタイヤのクイーン・エリザベス病院では薬剤不足が深刻化しており、病院職員が自ら必要な薬剤を私費で購入して患者に提供するまでの状況となっている。医療分野の危機は、ドナー諸国の財政支援停止等による国庫の逼迫に起因しており、状況改善の見通しは立っていない。(4月6日、ネーション紙3面)